

## 豚繁殖・呼吸器症候群に対する防除対策の検討

紀北家畜保健衛生所  
○片山晃志 藤原美華  
小松広幸

### 【概要】

豚繁殖・呼吸器症候群（以下 P R R S）は妊娠豚に繁殖異常、離乳豚に呼吸器障害や発育不良を引き起こすウイルス性疾病である。特徴はウイルスの排出期間が 90 日と長く、遺伝子変異が激しい事で、蔓延しやすく清浄化が難しい疾病である。この事から、P R R S の発生を予防するには P R R S ウイルスの農場への侵入を防止する事が重要となる。

### 【背景】

平成 27 年 6 月、管内 4 戸の全養豚農家を対象に肥育豚での P R R S 抗体検査を実施。その結果、1 戸の農家（以下 A 農家）で 10 頭中 6 頭で抗体陽性。過去、A 農家は P R R S 抗体陰性であった事から農場への P R R S ウイルスの侵入が疑われ、早急な対策が必要と考えた。

### 【A 農家の概要】

A 農家は繁殖から肥育までを行う一貫農家で、作業員 4 名で運営。規模は繁殖母豚 23 頭、種雄豚 6 頭、肥育豚 200 頭を飼養する農家で、施設は、繁殖豚舎と肥育豚舎が別棟の構造となっている。（図 1）

### 【調査】

P R R S 抗体陽性の結果から、A 農家に対し飼養状況、導入状況、管理状況、作業動線について聞き取り調査を実施。

調査の結果、従業員全員が繁殖・肥育両方の作業に従事している事、肥育豚については一部、県外より導入を行っている事、導入された豚は隔離期間を設けず自家産肥育豚と同居させている事、及び、導入豚について P R R S ワクチンが未接種である事が判明。（表 1）

また、平成 27 年 9 月に新たに導入された豚について E L I S A による P R R S 抗体保有率を調査。

E L I S A の結果、導入豚全頭で抗体の保有を確認。

また、導入元での P R R S ワクチンは未接種であるという事から、導入豚を介して A 農家へ P R R S ウイルスの侵入リスクが示唆。

（図 2）

### 【指導内容】

調査結果を受け、A 農家と協議の結果、P R R S 発症予防と導入中止にむけ指導を開始。

まず、発症予防としてワクチン接種と飼養管理の徹底を指導。飼

養管理の指導として豚舎ごとに専用の長靴・作業着を準備、オールアウト後の豚舎の洗浄・消毒、作業者の繁殖・肥育での専従化、イベルメクチンの塗布を指導。

次に導入中止に向け、繁殖成績向上のため繁殖母豚の増頭・更新と発情周期の把握を指導。その他、人工授精による優良繁殖母豚の生産についても助言、指導。(表 2)

**【現在の状況】**

現在、肥育豚全頭へのワクチン接種は終了。繁殖母豚の増頭・更新が開始され、導入中止に向け準備が進行中。(図 3)

**【まとめ】**

P R R S 抗体検査により、管内の A 農家で抗体陽性となった。それを受け、調査を行った結果、導入豚からの P R R S ウイルス侵入のリスクが示唆。A 農家と協議の上、P R R S 発症予防と導入の中止に向け、ワクチン接種や飼養衛生管理の徹底等を助言、指導。現在、肥育豚でのワクチン接種が全て完了、母豚の更新・増頭を開始。

今後も、P R R S の蔓延防止と導入中止の実現に向け、指導していく方針。(図 4)